

事業報告書

事業名	アジア太平洋地域におけるグローバル化に対応できる若手ソーシャルワーカーの人材育成と国際交流事業
事業の実施状況	<p>1. 国際交流ワークショップ「災害ソーシャルワーカー社会見学・講義・グループワーク」の開催 [日程] 2018年9月21日(金)～23日(日) [場所] 宮城県石巻市 [参加者] 22人(日本15人、インド・ネパール・ベトナム・スリランカ・ミャンマー・オーストラリア・タイの7か国7人) [内容] 社会見学、報告、講義、シンポジウム、グループワーク</p> <p>2. アジア太平洋セミナー「子どもの保護システムの増進(災害ソーシャルワーク児童保護トレーニング)への参加等」への参加等 [日程] 2018年10月7日(日)～11日(木) [場所] Ponce de Leon Garden Resort (プエルト・プリンセサ市/パラワン島/フィリピン) [主催] フィリピンソーシャルワーカー協会 [参加者] 大橋雅啓、小原眞智子(公益社団法人日本医療社会福祉協会)、星 明里(日本社会事業大学)</p> <p>3. 世界ソーシャルワークデー2019 記念イベント「シンポジウム『外国人労働者の権利とソーシャルワーク』」の開催 [日程] 2019年3月23日(土) [場所] 日本女子大学(東京都文京区) [参加者] 約40人 [内容] <第1部>災害ソーシャルワーク・ワークショップ(宮城県石巻市)の報告 <第2部>シンポジウム「外国人労働者の権利とソーシャルワーク」 [シンポジスト] 中村ノーマン(多文化活動連絡協議会代表、元神奈川県外国籍県民会議委員長)、フランク・オカンポス(野の花の家ファミリーセンターヴィオラ・ソーシャルワーカー)、李 寒櫻(日本女子大学人間社会学部社会福祉学科博士課程学生)、方 こすも(カサ・デ・サンタマリア相談員) [司会進行] 木村真理子</p> <p>4. インターネットによる事業実績等の周知・共有及び記録集の作成 1) IFSW 及び IFSW アジア太平洋地域のウェブサイト及び Facebook への事業報告の掲載 IFSW 及び IFSW アジア太平洋地域の協力を得て、事業実績をウェブサイト及び Facebook に掲載し、アジア太平洋地域のソーシャルワーカーをはじめ関係者に本事業の成果等を広く周知・共有した。 2) 電子メディアによる記録集の作成</p>

	<p>事業実績に係る関係資料を収載した CD-R を作成した。</p> <p>5. 企画委員会の設置及び開催地への委員等の派遣</p> <p>JFSW 構成 4 団体の関係者による企画委員会を設置し、プログラムの立案、開催地のソーシャルワーカー団体との連絡調整等、プログラム実施支援（統括）、実施後の総括、フィリピンソーシャルワーカー協会との連絡、日本の若手ソーシャルワーカーの派遣調整等を行った。</p> <p>なお、委員会への出席に係る交通費は所属団体が負担し、遠方の委員においてはインターネットのビデオ通話機能（Skype）を利用して会議に参加する方法で実施した。</p> <p><日本ソーシャルワーカー連盟構成 4 団体></p> <p>公益社団法人日本精神保健福祉士協会、公益社団法人日本社会福祉士会、公益社団法人日本医療社会福祉協会、特定非営利活動法人日本ソーシャルワーカー協会</p> <p><企画委員長：1 人></p> <p>木村真理子（日本女子大学／日本精神保健福祉士協会）</p> <p><企画委員：9 人></p> <p>大橋雅啓（東日本国際大学／日本精神保健福祉士協会） 中島康晴（地域の絆／日本社会福祉士会） 平田美智子（日本社会福祉士会／IFSW アジア太平洋地域会計） 森 恭子（文教大学／日本社会福祉士会） 小原真知子（日本社会事業大学／日本医療社会福祉協会） 坪田まほ（日本医療社会福祉協会） 春見静子（日本ソーシャルワーカー協会） ヴィラーグ ヴィクトル（長崎国際大学／日本ソーシャルワーカー協会）</p> <p><事務局：3 人></p> <p>坪松真吾（日本精神保健福祉士協会常勤職員／事業・財務担当） 小澤一紘（日本精神保健福祉士協会常勤職員／事業担当） 大仁田映子（日本精神保健福祉士協会非常勤職員／財務担当）</p>
事業の成果	<p>1. 国際交流ワークショップ「災害ソーシャルワーカー社会見学・講義・グループワーク」の開催について</p> <p>宮城県石巻市での国際交流ワークワークショップの目的は、第一にアジア太平洋地域の若手ソーシャルワーカーの人材育成と国際交流を主としたプログラムを当該市内で開催し、被災地や災害後のプログラムの見学などを通じた災害ソーシャルワークの理論・技術の習得である。第二に、アジア太平洋地域の数か国の若手のソーシャルワーカーが日本のソーシャルワーカーと交流し、異文化を学び、互いに国際感覚を養うことであった。</p> <p>プログラム終了後、参加者にアンケート調査を行った結果、海外からの参加者の評価は 5 段階評価で平均 4.8 と高く、フィールドワークや講師の話の内容が好評で、ワークショップは今後のソーシャルワーク・教育に生かされると評価している。</p> <p>3 日間の国際交流ワークショップを通して、アジア太平洋のソーシャルワーカーとして、国籍を超えた交流ができたことは一番の成果だったと考える。また、災害支援に取り組むソーシャルワーカーとして、国や文化の違いはあっても、使命感は共通していることが確認できた。今回の交流プログラムで</p>

生まれた国際的なネットワークは、今後のアジア太平洋地域のソーシャルワーカーの連携に貢献することと確信する。

2. アジア太平洋セミナー「子どもの保護システムの増進（災害ソーシャルワーク児童保護トレーニング）」への参加等について

フィリピンソーシャルワーカー協会（以下「PASWI」という。）主催のアジア太平洋セミナー「子どもの保護システムの増進」（以下「セミナー」という。）に参加し、日本の現状を報告した。

1日目はフィリピンの児童虐待の現状についての報告。特に、児童の人権問題として、SNSの普及により、児童ポルノが拡大しており、貧困から家族ぐるみで加担している事例があるとの報告があった。続いて大学教員から児童虐待に関する統計推移の説明があり、児童虐待がフィリピンにとっては喫緊の課題であることが強調された。また、わが国の災害支援の現状について、JFSW国際委員の小原・大橋による発表を行い、意見交換がなされた。

2日目はUNICEF等からフィリピンの児童保護に対する取り組みと事業補助制度についての説明。いまだ紛争地帯であるミンダナオ島では、児童が戦闘員として戦争に加担している現状が語られ、児童虐待問題とは一線を画す、児童の人権問題が報告された。

本セミナーでは、日本の児童虐待や子どもの貧困に対する福祉サービスのあり方を検討する上で、非常に有益であった。特に、子どもの保護システムを社会全体で取り組む方法やアジア全体での子供の保護に関する共通課題と各国の独自性を検討する上での有益な情報が得られた。また、これからソーシャルワーカーになる学生にとっても国際的な視野で福祉問題を考える良い機会であったと同時に、これからの日本の社会福祉を支える人材育成の点でも有益であったと考える。

3. 世界ソーシャルワークデー2019 記念イベント「シンポジウム『外国人労働者の権利とソーシャルワーク』」の開催について

外国人労働者を受け入れることがもたらす影響は、本人だけでなく、今後新たに形成される家族、日本で生まれる子どもたちの将来にまでおよぶ。子どもたちは、日本社会を日本人とともに築く人材であるということを考えると、日本人も外国人も共に日本のあり方について考え合う機会を拡大することが求められるのではないだろうか。労働者の大幅受け入れに伴う環境整備は、日本語研修の充実、情報提供機関の設置場所の増加等、表面的な技術だけでは不足であろう。将来にまで影響を及ぼす問題を掘り下げて対応する必要がある。

外国人労働者の権利を護る問題はソーシャルワーカーだけでは解決できない。成功例や、具体策を提言しつつ、他の職種と協働して行くことが重要であると気付かされるシンポジウムであった。

4. その他

インターネットによる事業実績等の周知・共有により、アジア太平洋地域におけるソーシャルワーカー団体との情報共有や連携が図ることや日本のソーシャルワーカー団体として国際的なアピールを行うことができた。